

令和4年度第1回 ^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 令和4年7月7日（木）
- 2 場 所 杉妻会館 3階 百合
- 3 出席委員 6人
- 4 議 事

（1） 議題

ア 令和3年度森林環境基金事業の実績について

【事務局】

（資料2による説明）

【緑川委員】

資料2のP14 もりの案内人及びグリーンフォレスター受講者数と認定者数がイコールとならない理由について伺いたい。

【森林計画課長】

授業のコマ数全てを受講しないと認定とならないため、複数年にわたり受講し認定となる方もおり、受講者数と認定者数がイコールにならない。

【山口委員】

養成講座によって認定された方の、後の活動について、実践の場で活かされているといった報告は挙がってくるのか。

また、養成された方に、民間で主催するイベント等でのお手伝いを依頼する方法を教えてほしい。

【森林計画課長】

もりの案内人の会は、幼稚園・学校の要請に応じた木工教室を行うほか、植樹祭での指導等のボランティア活動をしてもらっている。

ボランティアサポートセンターとして受付窓口をフォレストパークに設置しており、もりの案内人をつなぐことができる。各支部のもりの案内人の会から派遣されるような仕組みとなる。

【柴田委員】

PR としてもりの案内人の会で作成したチラシを、公民館を中心に紙ベースで配って

いる。

【森林計画課長】

今後紙ベースだけでなく、短めの動画を作成する等して情報発信に取り組んでいきたいと考えている。

【掃部委員】

令和3年度の事業の実績について、県の自己評価はないのか。

【森林計画課長】

資料2の各事業の説明に事業評価を記載しているところではある。

【掃部委員】

さらにこれは良かったという事業はあるのか。（目玉事業等）

【森林計画課長】

若者の森林自己学習支援事業では、アカデミアコンソーシアム福島という機構を通して大学へ周知され、大学生が立てた計画に係る経費を補助している。

【柴田委員】

森林機能向上事業において、間伐の実績が出ているが、県内では機能向上しなければならない森林がどのくらいあるのかというデータが必要では無いのか。

【森林整備課長】

福島県農林水産業振興計画において8,000ha/年を目標として実施している。令和2年度では6,000ha程実施している。森林環境基金事業では令和3年度1,000ha程度を実施している。

民有林面積は、56万4千haあり、全てやりたいところではあるが、現実的な数値である8,000haを目標としている。

【森林計画課長】

森林整備は一度手を加えて終わりではないため、現実的な面積とならない。緊急的に実施しなければならないところで現実的に手が届く数値を8,000ha/年とし、それを繰り返すことで到達できると考えている。

イ 令和4年度森林環境基金事業の実施について

【事務局】

(資料3による説明)

【山口委員】

エコ七夕事業において、笹を園に送るとか松ぼっくりを送るとか、園に落ちる事業を実施してほしい。

また、木とのふれあい創出事業で貸出される木製遊具の購入先が特定の業者に偏っているように感じる。県内にはもっとたくさんの業者が玩具を製作している。

令和5年度事業では、木育インストラクターの知識を活かした玩具の選定や、子どもたちの手に届くような(笹等)構築をしてほしい。

【林業振興課長】

木製遊具の貸出は今年度初の取組である。県内7方部2箇所実施する応募が多く反響がある。令和5年度に向け、遊具の種類や貸出の方法については検討していく。

【沼田座長】

木育インストラクターの意見は、木製遊具の選定において反映されているのか。また、木製遊具は新たに作ったものなのか。

【林業振興課長】

木育インストラクターの認定は昨年度から始まった事業であり、20名認定したが、並行して遊具の貸出をはじめたことから意見は反映されていない。

木製遊具については、新たに作ったものもある。安全性を考慮しながら選定した。

【山口委員】

木製遊具を4トントラック4台分ほど保有している。貸し出しする木製遊具の募集を行うことで足りない部分を補うことができると思う。

【林業振興課長】

木製遊具は、木材関係団体から情報をもらって選定した。事業内でアンケートを実施していくので、その中で遊具の選定検討していく。今後情報収集に努めながら充実していきたい。

【丸委員】

県立学校における森林環境学習推進事業の実施校9校を知りたい。また、学校数を増やすことは可能か。

また、今後の事業において、さらに緑化やバイオマスに力を入れてほしい。

【沼田座長】

森林環境教育は、高校のほか小中学校でも実施していたが、それらはどうか。
また、植樹祭の予算を減らしているのはなぜか。

【高校教育課 指導主事】

令和3年度は9校実施した。令和4年度については、10校で実施予定である。

【森林計画課長】

小・中学校では、森林環境交付金事業として、交付金額の中で森林環境教育の実施しており、県内6割の学校で実施している。

学校からの提案を予算によって妨げたことはないので、要望に合わせて増やしていくことは可能であると思う。

植樹祭の第1回は3,000人規模であったが、コロナの影響で今回は500人としている。

【林業振興課】

県外内でバイオマスに関わる施設が大小約50基ある。燃料として50万m³程利用されていると推測され、伐採された木の班分くらいはバイオマスとして利用されている。燃料用材の取り合いのような状態となっている。

運搬経費の支援を路網整備、森林整備と合わせて実施し、燃料利用を増やしていきたい。

【森林整備課長】

植えて育てて伐って利用することが循環利用の考え方である。利用の中にバイオマスの利用も含まれる。材料の供給という面から、森林整備事業の中でその循環利用を促進している。

【沼田座長】

若者の森林自己学習支援事業で学んだことを森林環境学習実施校で発表してもらう機会を作ってはどうか。

【森林計画課長】

要望型の事業であるので、提案はできるが強制はできない。

【山口委員】

なぜ自治体にはペレットストーブを置いていないのか。

林業祭は年1回ではなく、地区ごとに行うとか、ペレットストーブの良さが分かりや

すいよう、冬場にやるのはどうか。もっと普及するのでは。

【林業振興課】

ペレットストーブは民間事業者へ 100 台／年で補助、公共施設は重点枠で補助している。

以前は県庁の県民ホールでも焚いていたが、建築上の問題で使用できなくなった。引き続き PR していく。

【森林計画課長】

林業祭は、関係団体と実行委員会を立ち上げている。各方部での実施や、複数回やるのは難しい。ペレットストーブの展示等による PR については、検討したい。

【山口委員】

ペレットストーブは扱いにくいので普及しにくい。それをどうするのか今後考えていく必要があるのではないのか。

【森林整備課長】

例えば薪ストーブは、掃除が大変であるが、炎がみえたり、薪割りで運動になったりと良いことがある。いかに良いところ悪いところを伝えていくのが大切であると考えてる。

【柴田委員】

ペレットストーブはどれほど CO2 ダイエットの役に立っているのか。
また、薪については流通が少ない。

【森林計画課長】

成長過程で二酸化炭素を吸収しているのでニュートラルと言えると思う。
薪の確保について、県が仲介することはできない。

【沼田座長】

CO2 の削減量が簡易的に計算できるエクセル等があれば、CO2 ダイエットへの貢献度を感じることができるのではないかと思う。